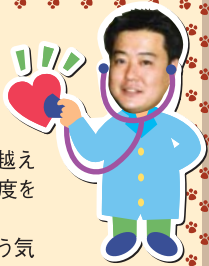


院長からのメッセージ

院長 石黒 英 昭



少し前まで暑い夏でしたが、今年は秋を飛び越えてすっかり寒くなりましたね。今年の夏は、40度を超える地域もあったほど、とても暑かったです。

動物の平均体温(37.5~39度)を越えてしまう気温ですから、人と同様動物も大変でした。

さて今回のニュースレターは、日々診察していて腫瘍に遭遇する機会が多くなったので、そのことについて書いてみました。

動物はしゃべれませんので、早期発見には、飼い主さんの日々の観察がとても重要となります。参考になればと思っています。

冬 乾燥の季節です

私たち人間は、冬になると指先やかかとかがカサカサしてきますよね。

ワンちゃん、ネコちゃんも乾燥肌になるのを知っていましたか？ 毛でおおわれているのでわかりにくいかも知れませんね。

どんな症状かというところ、フケが多くなったり、非常にかゆがたりします。時にはあしのつらのパットの部分がしもやけやひび割れを起こすワンちゃん、ネコちゃんもいます。

乾燥から守るには、暖房だけでなく十分に加湿をしてあげてください。と、同時にワンちゃんの皮膚と被毛の状態をよく保つために、定期的にシャンプーをして十分に保湿することが大切です。

皮膚の油分や脂質をそのまま保ち、乾燥を防ぐシャンプーとして当院では「オーツシャンプー」を薦めています。

また、乾燥肌を繰り返したり、脱毛が多いワンちゃん、ネコちゃんには、サプリメントとして「マイビュー」をお薦めしています。この「マイビュー」は栄養価の高いサプリメントです。

健康のために大切な必須脂肪酸を含み、脂溶性、水溶性ビタミンとミネラルが配合されています。

夏に比べて、ノミアレルギーや細菌感染による皮膚病は少ないですが、乾燥肌は予防していけば防げますので、ワンちゃん、ネコちゃんが冬をより健康に過ごせるような環境を作りましょう。



オーツシャンプー



マイビュー



What 動物の病気

しゅよう 腫瘍

～体表にできる腫瘍～

乳腺腫瘍

女の子のワンちゃんの全腫瘍の半分を占めるほどかかりやすい病気です。特にワンちゃん、ネコちゃんの乳腺は、4~5対と人間より数が多いので発生することは多いです。

ワンちゃん、ネコちゃんをあおむけにしてもらうと分かると思いますが、胸、脇の下から下腹部、内股まで乳腺が広がっています。

症状は、乳腺にしこりができます。

ネコちゃんの乳腺腫瘍は80~85%が「悪性腫瘍」(乳ガン)といわれているのに対して、ワンちゃんの場合「良性」と「悪性」の比率は約50%ずつといわれています。

治療は、しこり(腫瘍)の部分を外科的に切除することが一番です。同時に、麻酔前検査として血液検査と転移の有無をみるためX線検査が必要となります。切除した腫瘍は病理検査を行い、「良性」か「悪性」かを診断します。



予防としては、乳腺腫瘍(特にワンちゃん)は、女性ホルモン(発情)とのかかわりが大きいといわれていますので、早い時期での避妊手術が大切です。

避妊手術を行う時期と、乳腺腫瘍発生率を以下の表に示します。

避妊手術をずる時期	乳腺腫瘍の発生率
初発情前	0.05%
初発情~2回目の間	8%
発情2回目~3回目の間	26%

5歳以上になると乳腺腫瘍を発生しやすくなり、発生のピークは10~11歳といわれています。2歳の若いワンちゃん、9カ月の子ネコちゃんでも私自身経験があります。

肛門周囲腺腫

これは、字のごとくおしり(肛門)のまわりにできる腫瘍です。8歳を過ぎた去勢をしていない男の子のワンちゃんに多いです。男性ホルモンが関与しているといわれているため、去勢したワンちゃんでは、去勢した時期にかかわらず、ほとんど発生がみられません。

治療としては、おしりのまわりにできた腫瘍を切除するとともに、去勢手術をすることが一番です。



皮膚腫瘍

乳腺にできる腫瘍(乳腺腫瘍)、おしりのまわりにできる腫瘍(肛門周囲腺腫)以外で、体の表面にできる腫瘍を皮膚腫瘍といいます。



上記に示した皮膚腫瘍は、一見同じように見えますよね。①のできものは良性腫瘍で、②は悪性腫瘍です。

良性の腫瘍で多いのが、組織球腫(そしききゅうしゅ)といわれるもので、悪性の腫瘍で多いのが肥満細胞腫(ひまんさいぼうしゅ)です。(太っている「肥満」とは関係ないですよ)

これは、おなかの中にもできる事があり、その時は嘔吐したり下痢したりと症状が起きますが、皮膚にできた時は良性の腫瘍と外見上ではわからず、蚊に刺された跡のように皮膚が一部赤く腫れ上がります。

治療としては、まずは内科的療法で反応をみて、大きさが小さくなれば良性のものが多いですが、反応が全くみられない場合は外科的に切除することが一番です。

以上に示した体表にできる腫瘍は、毎日の診察で多く見られます。おなかの中にできる腫瘍と違って、早期発見は容易だと思います。小さいしこり(腫瘍)であれば切除する部分も小さく済みますし、手術時間も短く、ワンちゃん、ネコちゃんの負担も少なくなります。

週に一度、月に一度はスキンシップをかねて、ワンちゃん、ネコちゃんをやさしくさすってあげてください。

“これは何?”と思われるものがありましたら、すぐに相談して下さいね。



スリスリ...